

広報 ㊦
No.724
令和6年

いいたて 6

www.vill.iitate.fukushima.jp



the most beautiful
villages
in japan



①②「OpenDay」と題したお披露目会。地域おこし協力隊の横山梨沙さん、高橋洋介さんが提供したドリンクと焼き菓子、村民食堂の料理を囲んで、和やかな対話のひととき。③ユニフォームを披露するスタッフ。『3ど』にちなんで3のポーズで。



れた会場に、杉岡村長や長正増夫行政区長会長などが訪れ、移住者や移住希望者と村民が交流し、飯館村の暮らしをつなぐ『3ど』の取り組みについて、スタッフを交えて語り合いました。

心地よい音楽が流れる会場では、飯館村地域おこし協力隊がドリンクや焼き菓子を提供。同会場で毎月開かれている「村民食堂」による郷土料理の振る舞いもあり、来場者が温かな交流を楽しんでいました。



Instagram



WEBメディア

ティザー
サイト
公開中



福島大学の学生が中心となって営む村民食堂の大黒柱・高橋トク子さん(深谷)。

3ど

いいいたての
暮らしをつなぐ
ステーション

3どいいいたての暮らしをつなぐステーション
いいいたて移住サポートセンターをリニューアル



いいいたて移住サポートセンター

3ど いいいたての暮らしをつなぐステーション

飯館村伊丹沢字伊丹沢578番地1(までいな家)

☎0244-68-2850

平日午前9時～午後5時30分※土日祝日は予約制

✉ iju@iitatelife.jp



一面を鮮やかに染めるポピー畑。緑の風に吹かれています。

目次 CONTENTS

- 02 話題「3ど」
- 04 特集「村民の森あいの沢」
- 10 お知らせ「行政区長副区長会議」
- 12 学びの広場「いいいたてっ子運動会」ほか
- 15 報告「長泥地区」
- 16 空から百景「緑の草野館」
- 18 報告「菅野典雄前村長県知事表彰」ほか
- 20 いいいたて便り
- 22 話題のパレット
- 25 **NEW!** いいいたてなりわいREPORT
- 26 村からお知らせ
- 28 いいいたてイノサル通信
- 29 歴史の散歩道／ふれ愛館だより
- 30 村民広報委員コラム ほか
- 31 愛楽故郷味／ひとのうごき
- 32 ほっとNEWS／ナイター駅伝参加者募集

📷 今月の表紙

相馬野馬追の御行列に出場した佐藤瑠満成(るみな)さん(写真中央)と父親の弘典さん(瑠満成さんの一騎前／小宮)。堂々の英姿です。瑠満成さんはセブン-イレブンいいいたて村の道の駅までい館店の店長。野馬追初出場は2歳の時で、今回は、高校生の時以来の出場です。一方、南相馬市出身で、中学生の時から出場している弘典さんは、馬術を学び、競走馬に関連する仕事に就いていました。現在は、村内などで引退競走馬を飼養し、小宮地区の自宅周辺に乗馬体験ができる施設をコツコツ整備しています。開催日が5月に変更された相馬野馬追、同26日の御行列を南相馬市で撮影しました。

村はイベントや取り組みを取材し広報紙やホームページに掲載しています。写真掲載に不都合がある方は、お手数ですが、村づくり推進課企画定住係 ☎0244-42-1613 までお知らせください。

特集

村民の森 あいの沢

至 愛の句碑／イベント広場（フリーサイト）

新規就農者
技術習得管理施設

コンベンションホール

入浴施設／岩盤浴

宿泊棟

宿泊体験館きこり

エントランス／受付

離れ客室

ため池を中心に豊かな森の緑が広がる「村民の森あいの沢」。約50ヘクタールの広大な敷地の中に、宿泊体験館きこり、あいの沢キャンプ場、民家園、愛の句碑、遊歩道などが、ゆったりと配置されています。

リニューアルしたキャンプ場の利用を一昨年から再開したのに続いて、今年7月には、新規就農者技術習得管理施設がオープンします。また、宿泊体験館きこりでは軽食堂「やまぼうし」が5月から営業を再開。その他、キャンプ場の増設や、主要エリアのインターネット環境の整備なども進めているところです。

「村民の森あいの沢」のリニューアル情報と、最近のトピックをお届けします。現在、ため池の工事を行っていて、遊歩道の一部と「あいの浮橋」は使用できませんが、各施設は通常営業中です。夏本番を迎える「村民の森あいの沢」をぜひ訪れてみませんか。

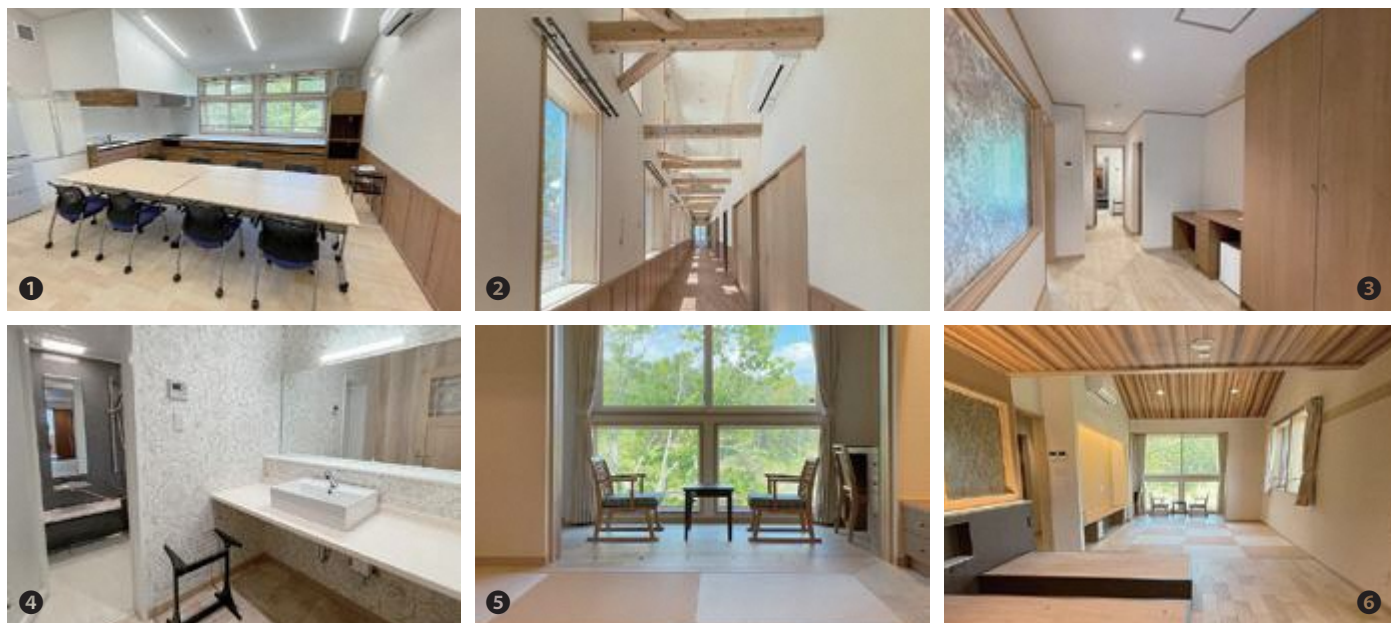
至 遊歩道

新規就農者技術習得管理施設

7月
OPEN



新規就農を希望する人が、就農体験を通して技術や経営知識を習得する期間に、生活の場として利用する施設。農業振興や移住促進の新たな拠点として、7月から運用を開始します。公募で決定した名称も公表されます。



①ダイニングキッチン。研修室としても活用します。②居室をつなぐ廊下。居室には「もみ」「くり」など樹木の名前が付けられています。③④各居室に収納、洗面所、風呂などを備えています。⑤⑥窓の外には緑の景色。居室は5人定員の部屋が4室、7人定員の部屋が1室で、最大27人を受け入れます。

■施設内容

エントランスホール、事務室、ダイニングキッチン、研修室、洗濯室、居室5（定員5人4室・定員7人1室）

■利用方法・料金等の詳細については、施設名の発表と共に、7月号で紹介します。

問 産業振興課農政第一係 ☎0244-42-1621



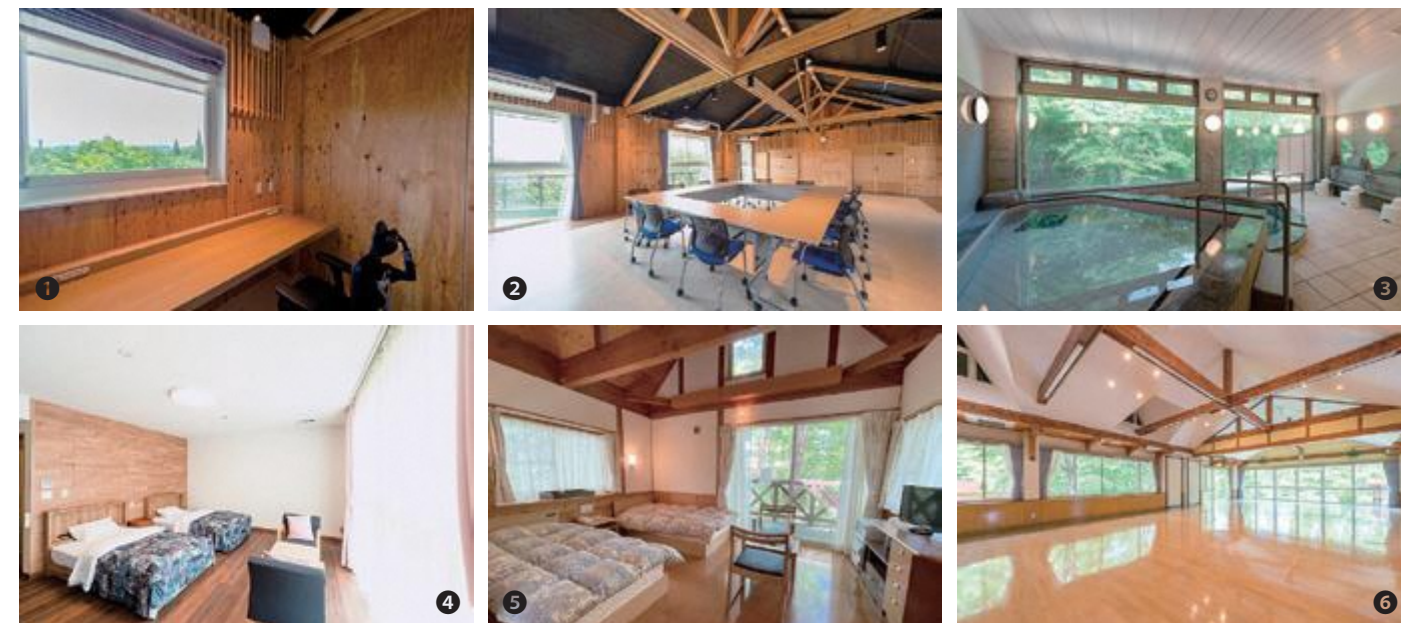
農業委員会事務局
草野健太郎 主査

農業技術指導や専門家による講習の開催等、村で就農を希望する方々に有意義な場所となるよう、農業研修のメニューを充実させていきます。

宿泊体験館きこり



緑の森に囲まれた宿泊施設。「トゴール鉱石」を使った入浴施設は、日帰り入浴でも利用可能。癒やしの音楽とアロマの香りに包まれる岩盤浴も人気です。ワーケーションや会議、イベント開催にぴったりのスペースも。



①②令和5年に宿泊棟をリニューアル。2階にWi-Fi完備のリモートワークブースと研修室が新設されました。③開放的な大浴場。④宿泊棟の洋室。ナチュラルな色調の室内に外光がやさしく差し込みます。⑤3棟の離れ客室も人気。⑥コンベンションホール。会議やイベント等に貸し出します。

■日帰り入浴

午前10時～午後8時※最終受付午後7時30分

大人（中学生以上）1回400円

子ども（小学生）1回200円

乳児・幼児 無料

■イオラ（岩盤浴）

午前10時30分～午後5時25分※最終受付午後4時30分

大人（中学生以上）1日1回1,000円

■宿泊棟／離れ客室（素泊まり）

大人（中学生以上）1人1泊5,500円

子ども（3歳以上小学生以下）1人1泊4,400円

問 宿泊体験館きこり ☎0244-42-1012

※電話受付午前9時～午後6時

ぜひ多くの方にご利用いただきたいです。併設の新施設（P7）にも期待しています。飯館村を気に入って住んでくださる方が増えるといいですね。



宿泊体験館きこり
支配人 佐藤 幸夫 さん

さまざまなイベントに活用されています



古民家を移築した「民家園ふるさと」は、心和む風情を生かして、さまざまなイベントに活用されています。上の写真は4月28日に複数の団体が協力して開催したワークショップ。彫刻家の松田重仁さんや、あいの沢管理棟のスタッフが講師を務め、事前申し込みをした家族連れなどが巣箱づくりを体験しました。また、樹木医などのガイドであいの沢の自然観察会が行われた他、手づくりの昼食を囲む交流会も催されました。



民家園ふるさと

☎0244-42-0511 (管理棟)

※電話受付・午前9時～午後4時

■施設利用

午前8時30分～午後5時

個人	大人(中学生以上)	1日300円
	子ども(小学生以下)	1日200円
団体	1組・4時間未満	2,500円
	1組・4時間以上	5,000円



村民の森あいの沢キャンプ場

☎0244-42-0511 (管理棟)

※電話受付・午前9時～午後4時

■オートキャンプ場(電源付き・炊事場あり)

1泊1サイト2,000円/日帰り1,000円

■フリーサイト(イベント広場)

1泊1張500円/日帰り1人100円

■チェックイン午後1時～午後5時/

チェックアウト午前10時

※日帰りでの利用は午前9時～午後4時

■ペット同伴可(リードを着用の上)



緑の木立に囲まれ、週末ごとに多くのキャンパーでにぎわう『あいの沢キャンプ場』。15区画のオートキャンプ場に加え、広々としたフリーサイトも人気で、手ぶらで来てもキャンプが楽しめるレンタル用品も整っています(詳しくは左のQRコードからご確認を。数に限りがあるため予約がおすすめです)。

フリーサイトのトイレはウォッシュレット機能付きの最新型。また、ほとんどの方が宿泊体験館きこりの入浴施設を利用されていますが、管理棟のシャワー(1回12分100円)も使えます。



寄り道スポット



あいの沢では、緑に包まれ、遊歩道や木道を散策することができます。野鳥のさえずりが心地よく、貴重な山野草にも出会えます。キャンプ場の近くには、ホテルも生息しています。

左の写真の木造の建物はキツツキがつついて穴だらけ。管理人さんが穴をふさぐと、また隣をつつくため、穴とふさいだ木片がアートのように。ユニークな自然観察スポットになっています。一方、下の写真は愛の句碑の遊歩道。平成13年から18年に、俳人の黛まどかさんを選者に迎え、愛をテーマに全国公募した俳句に出会える小径です。選ばれた250句が、飯舘産のみかげ石に刻まれ、「愛の句碑」として設置されています。



左の写真は、宿泊体験館きこりに向かう坂道の左手にある「昆虫の森」。展望四阿(あずまや)に向かう遊歩道に虫型ベンチが点在しています。

軽食堂 やまぼうし

日帰り入浴施設の一角にある軽食コーナーです。大きな窓に戸外の緑が広がる明るい店内。靴を脱いで座卓を囲み、ゆったりと過ごすことができます。今年5月に営業を再開しました。

入口の券売機で食券を購入し、カウンターで注文。ラーメン、そば、うどんなどの麺類、チャーハン、カレー、おにぎりなどのご飯もの、全12品の食事メニュー(5月28日現在)があります。

リニューアルオープンを記念して、おにぎりを除く食事メニューを100円引きで提供しています(6月30日まで)。



■営業時間
午前11時～午後2時

問 宿泊体験館きこり ☎0244-42-1012
※電話受付午前9時～午後6時

20行政区の区長・副区長を紹介します 敬称略



飯館村女性消防隊が協力を要請

議事に入る前に、飯館村女性消防隊が、加入推進への協力を呼びかけました。「自分の家から火は出さない」を合言葉に、かつては全戸が加入していた女性消防隊。防災活動の一環として、行政区としても加入推進に働きかけてもらえるよう、今野スイ子隊長（蕨平）らが説明を行いました。写真は右から今野隊長、三瓶たつ子副隊長（大久保・外内）、飯館分署の大谷崇徳さん（小宮）。

4月24日、交流センター「ふれ愛館」で、「令和6年度第1回飯館村行政区長・副区長会議」が開かれ、行政区長と副区長に委嘱状が交付されました。任期は令和8年3月までの2年間で、行政区長会長には引き続き、長正増夫区長（大久保・外内）が選任されました。



地域みがきあげ計画（令和3年度～7年度）

20行政区ごとに令和3年度から5年間の目標や取り組みをまとめた「地域みがきあげ計画」。地域の魅力、課題、将来像などを踏まえた地域づくりの主な計画が記されています。「地域みがきあげ計画」に掲げた各行政区の「目標」を紹介します。

- | | |
|--------------------------------|------------------------------|
| 草野／ホッと立ち止まりたくなる草野 | 前田・八和木／復興と営農再開、若者が定住できる郷 11区 |
| 深谷／住む人、来る人、過ぎる人、みんなで楽しく里づくり | 大久保・外内／なんとなく楽しい結いの郷 |
| 伊丹沢／みんなで力を合わせて築いたみざわ | 上飯樋／地区の主体性が育む魅力あふれる上飯樋 |
| 関沢／笑顔と心の豊かな人づくり | 比曽／新しい比曽に向けて一歩ずつ、みんなの力を少しずつ |
| 小宮／住みやすい田舎 小宮 | 長泥／人と自然とがふれあう花の里長泥、再び |
| 八木沢・芦原／太平洋を望める自然豊かな風力の郷 八木沢・芦原 | 蕨平／次世代につないでいくふさと、人の繋がりがある行政区 |
| 大倉／水と緑の出会いの郷 大倉 | 関根・松塚／みんな笑顔で暮らせるゆーとぴあを目指そう |
| 佐須／「話、和、輪」の笑楽づくり～きょうよりあしたの佐須へ～ | 白石／ひとりでも、みんなでも楽しい行政区 |
| 宮内／家族的で まとまりのある心豊かな 八龍の里 | 前田／北の清水 蛍の楽園 19 |
| 飯樋町／にぎわいと笑顔あふれる融和の里 飯樋町 | 二枚橋・須萱／地域の繋がりと環境を大切にする20区 |

退任された前行政区長

- 市澤秀耕さん（深谷）
長井 実さん（関沢）
大和田保男さん（八木沢・芦原）
大槻博久さん（大倉）
今野茂之さん（前田・八和木）
菅野義人さん（比曽）
鳴原新一さん（長泥）
佐藤建夫さん（関根・松塚）
- ありがとうございました

各行政区の副区長のお名前を紹介します

- | | |
|---------------|---------------|
| 草野／八巻吉邦さん | 深谷／齋藤守夫さん |
| 伊丹沢／花井敬三さん | 関沢／須和正則さん |
| 小宮／須田幸正さん | 八木沢・芦原／高野義一さん |
| 大倉／佐藤伸成さん | 佐須／佐々木敏雄さん |
| 宮内／大東 勇さん | 飯樋町／木幡久男さん |
| 前田・八和木／只野博之さん | 大久保・外内／松林正一さん |
| 上飯樋／山田利一さん | 比曽／遠藤 孝さん |
| 長泥／高野和幸さん | 蕨平／菅野二三夫さん |
| 関根・松塚／菅野賢治さん | 白石／和田憲昌さん |
| 前田／青田光雄さん | 二枚橋・須萱／佐藤公雄さん |



こども園3歳以上児の
キュートなダンス

転んでも
笑顔でゴール！

いいたてっ子運動会

2024.5.18

家族

尊敬する人

1年生から9年生が
タスキをつなぐ
いいたてっ子リレー

後期課程の100m走は
クラウチングスタートの
タイムレース決勝

みんなでゴクゴク
給水タイム

白熱の
神旗争奪戦

ユーモアたっぷりに
集団行動を披露

手具は手製の
オリジナル

全員自由参加の
地域種目も！

長泥地区 一部避難指示解除から1年 新たな解除に向けて

令和5年5月1日に、帰還困難区域の一部となる特定再生復興拠点区域と長泥曲田公園（拠点区域外では初）の避難指示が解除されて1年が経過しました。農業の再生に向けては、村と県が試験栽培を進めていて、2年目の実証で安全性が確認されれば、米は今年産から、野菜は来年産からの出荷制限解除に向けて、県や国との協議が行われる見通しです。

また、5月12日に長泥コミュニティセンターで開催された住民懇談会において、現在、帰還困難区域となっているエリアで整備しているイイタバイオテック株式会社の堆肥製造施設用地と施設で活用する資源作物栽培用地について令和7年春の避難指示解除を目指し国と協議すること、杉岡村長が説明し、住民の了承を得ました。用地の除染は既に行われていますが、村が設置した長泥地区環境回復検討委員会などが年間放射線量の確認検査を行い、村が結果を確認した上で、国や県と解除時期を協議します。今後ひとつひとつのステップを丁寧に進めていくことを、住民の皆さんと確認しました。



イイタバイオテック株式会社

長泥曲田地区に誘致した民間企業で、資源活用型の堆肥製造施設や資材置き場などの整備を進めています。来春の開業に向けて、求人も行っています。



学園NEWS!

学年を越え力を合わせて 前期課程の児童が田植え体験

いいたて希望の里学園の前期課程の児童が、5月23日、森永正男さん（前田・八和木）の水田で、田植えを体験しました。当日は、森永さんをはじめ、村民ボランティアの皆さんが協力。役場職員も応援に入り、子ども達と苗を植えました。

子ども達は縦割り班で活動し、上級生が下級生に田植えのコツを教えていました。また、田のぬかるみに足を取られた友達に「助けようか」と声をかけたり、抜けてしまった靴下を仲間で一緒に探したり。力を合わせて最後まで、笑顔で田植えを頑張りました。



感想発表で、来年は「さらに上手に!」「あまりドロドロにならずに植えたい」と話した5年生。楽しそうです。

いそ やま れい む 礧山麗魂さん

わんぱく相撲の大会で優勝!

5月6日、南相馬市原町区の市相撲場で開かれた「第29回わんぱく相撲大会原町場所」3年生の部にて、いいたて希望の里学園から出場した礧山麗魂さんが優勝に輝きました。

本大会は学童相撲大会も兼ねた大会であり、南相馬市と飯館村の小学生たちが、学年や男女別の個人戦で熱戦を繰り広げ、稽古の成果を発揮しました。

礧山さんは試合前から勝つ自信満々で試合に臨み、見事に優勝をつかみ取りました。



土俵の上で、小学生の熱戦が続きました。堂々の優勝を飾った礧山さん(左)。気迫のこもった取り組みです。



菅野さんには、避難直後の着任から長年にわたりご尽力をいただきました。本当にありがとうございました。

教育委員・菅野クニさん 教育振興への功労を称える表彰

5月22日、飯館村役場にて「全国市町村教育委員会連合会功労者表彰」に係る表彰状の伝達が行われました。表彰を受けた菅野クニさん（宮内）は、東日本大震災のあった平成23年の就任から令和5年の退任までの3期12年間、教育委員として村の教育行政にご尽力いただきました。

菅野さんは村の特産品であるナツハゼの生産者でもあり、「今後はジャムの生産や地域づくりで村の力になりたい」と話していました。

相馬家の当主・相馬高胤が文明年間（1469～87年）に築いたと伝わる草野館（くさのだて）跡です。「館（館）」とは武士の住居で、城や砦の役割を持っていました。草野館は元々あった丘を利用して築かれた山城。北西部に西館があり、2つの間は空堀で区画されていました。往時の面影を宿す草野館跡を、緑萌える5月に撮影しました。

菅野典雄 前村長 福島県知事表彰

村づくりそして震災対応
6期24年の功労を讃えて

平成8年から6期24年にわたり飯館村長を務めた菅野典雄さん（佐須）が、地方自治功労者として県知事表彰を受けました。

令和6年度各種功労者知事表彰式は、5月21日に杉妻会館（福島市）で挙行されました。式では、内堀雅雄福島県知事が、出席者の一人ひとりに表彰状を授与し、「全ての県民の鑑となる輝かしい功績」と讃えました。

菅野さんは、受賞者を代表して謝辞を述べ、「私達はそれぞれの立場で職務に当たってきたに過ぎませんが、はからずもこの荣誉に浴することができたのは、それぞれが自助努力を怠らなかつたこと、利他の心を忘れなかつたこと、そして多くの方々のご協力があつたからこそではないでしょうか」と振り返り、「精進を重ね、地域社会のために力を尽くしたい」と決意を語りました。



齋藤元彦 兵庫県知事が来村 復興サミットでの情報発信に協力要請

5月10日、齋藤元彦兵庫県知事が来村しました。

齋藤知事は、阪神・淡路大震災から30年の節目と大阪・関西万博に合わせて令和6年に開催する「創造的復興サミット」への参加を福島県と飯館村に要請するため来福していました。杉岡村長はこの要請を快諾し、加えて、これまでのつながりを生かして「防災・減災に向けた取り組み」「ゼロカーボン実現に向けた取り組み」「教育スポーツ交流」「観光・産品紹介」などにおいても連携していきたいと伝えました。また齋藤知事からは「兵庫県は但馬牛の産地であり、畜産をテーマにした交流もできるのでは」と提案がありました。

齋藤知事は総務省職員時代、震災直後の平成23年4月から約3か月間、飯館村の政府現地対策室に派遣され、計画的避難に関するさまざまな対応にあたりました。庁舎を視察し職員らと当時のできごとを振り返り、また長泥地区を視察するなどして、飯館村の復興の歩みを噛み締めていました。



復興庁の大臣・副大臣が相次いで来村

土屋品子復興大臣 長泥地区を視察

特定復興再生拠点区域と長泥曲田公園の避難指示が解除されてちょうど1年となった5月1日、土屋品子復興大臣が長泥地区を視察しました。

杉岡村長らが、長泥コミュニティーセンターで土屋大臣を出迎えました。また、課題解決への協力を求める要望書を手渡し、地域の特徴や震災後の状況、住民の皆さんの取り組みなどについて説明しました。

その後、土屋大臣は、環境省から環境再生事業に関する説明を受け、水田試験エリア、花卉栽培の実証を行うビニールハウスなどを視察。ハウス内では、高橋正弘区長をはじめとする住民から花束を受け取り、交流しました。

視察を終えた土屋大臣は「できるだけ早く長泥に来たいと思っていた。地域を再生し未来につなぐたいという住民の意欲を強く感じた。その思いに併走し支援したい」と話しました。



平木復興副大臣は「肉のゆーとぴあ」を視察

平木大作復興副大臣は、5月20日に来村し、山田豊さん（関根・松塚）が営む牛舎と、精肉店「肉のゆーとぴあ」を視察しました。

山田さんは、「肉のゆーとぴあ」の店名の由来について、関根・松塚地区の機関誌名「ゆーとぴあ17」（「17」は第17行政区であることから）にちなんでいることを紹介し、「自分一人の想いではなく、地区の人の想いも背負って取り組んでいる」と話しました。また、山田さんは、震災後の経緯を説明し、避難をしながら精肉店で学んだこと、当時は村に戻れないと思っていたが、「牛に関わる仕事をするはその土地の人間になることだ」と考え飯館に帰って来たことなどを語りました。そして、「牛について学び直す期間があり、後に福島再生加速化交付金を活用して事業を立ち上げることができて、今の自分がある。村全体の飼養頭数も増えてきていて、農家一人ひとりに想いや味の違いがある。自分一人が突出してやるのではなく、それぞれの想いを大切に、力を合わせていきたい」と伝えました。





上) 関東圏を中心に11人が参加。山ツツジが咲く大火山にて。 左) ゲストで俳優の春名風花さんも保存会の手ほどきで田植踊を体験。

「飯館YOITOKO発見!ツアー」 通算7回目のツアーを開催

5月12日の『飯館YOITOKO発見!ツアー』。交流センター「ふれ愛館」で『小宮の田植踊』を鑑賞し、かつて村営牧場があった大火山にて、飯館牛のブランド化に関わった山田猛史さん(関根・松塚)の講話を聞きました。また、ランチは「飯館村食を考える会」手製の「田植食」。村民と交流しながら、地元の新鮮な食材も味わいました。さらに「肉のゆーとぴあ」では、飯館産黒毛和牛を試食し、店主・山田豊さん(関根・松塚)の思いにも触れた一行。「1日で飯館村のファンになった」「またぜひ来たい」とツアーを満喫した様子で話していました。

春日部市の「藤まつり」にて 飯館村をPR

村は、4月28日埼玉県春日部市の「藤まつり」に出展し、特産品の販売を通して、飯館村をPRしました。同まつりは春日部市民に愛される恒例行事で、模擬店の出店やパレードなどが行われ、村としては昨年に引き続き出展となりました。

村のブースでは地域おこし協力隊の高橋洋介さん(Cocitto)が地元食材を生かしたパウンドケーキを販売し、併せて村の魅力や特産品をPRしました。



左) 長期にわたり支援と交流をいただいている春日部市の岩谷一弘市長(右)と杉岡村長。上)賑わう村のブース。



ピアノのメロディに自然の音を散りばめて。映像詩にも心を揺さぶられる守時さんならではのコンサート。

飯館の春の新曲を披露 守時タツミコンサート

自然の音や風景の映像とピアノ演奏を融合させた守時タツミさんのコンサート『景色の見える音楽会』が、5月18日、交流センター「ふれ愛館」で開かれました。守時さんはこれまで、飯館の夏・秋・冬をイメージした曲を発表してきました。そして、今回のコンサートでは春の新曲「2023飯館～花～」を披露。これで春・夏・秋・冬、全ての季節の曲が完成したことになります。飯館では6回目となるコンサートに、村内外から約70人が来場し、守時さんの奏でる美しいピアノに聴き入っていました。

福島県立医大保健科学部 今年度の村内実習がスタート

村は、令和4年に福島県立医科大学と包括連携協定を締結し、村民の健康福祉に関する取り組みを進めながら、医療人材の育成に協力しています。5月1日、今年度初回の実習が「いいたてホーム」で実施され、同大保健科学部の学生が、施設職員の講義を受け、先生方の指導の下、臨床実習を行いました。サロン等でのレクリエーション実習を含め、今年度の村内実習は、計12回が計画されています。入居者の皆さんは徐々に打ち解けて学生との交流を楽しみ、帰り際には「また来てね」と声を掛けていました。



5月22日の実習の様子。昔懐かしい遊びや話題を取り入れた作業療法実習が和やかに行われていました。



杉岡村長から委嘱状の交付を受ける渡邊隊長。防犯へのご協力を引き続きよろしくお願いします。

飯館村防犯指導隊 委嘱状等交付式

5月21日、村役場にて『南相馬地区防犯指導隊委嘱状等交付式』が執り行われました。南相馬地区防犯指導隊は、南相馬市原町区・鹿島区・小高区と飯館村の4地区で構成され、防犯活動を通して地域の安全を確保することを目的とした組織です。式では、飯館地区隊長である渡邊富士男さん(飯樋町)が代表で委嘱状の交付を受け、隊員全員が改めて地域防犯への意識を強く持ちました。

また、渡邊隊長は、同式の中で、南相馬地区防犯指導隊副隊長の任命も受けました。

相馬看護専門学校が実習 地域に寄り添う看護を見つめて

5月8日・10日・14日に、『相馬看護専門学校』の学生が村内で実習を行いました。同校は、飯館村と相馬市・南相馬市・新地町の2市1町1村で構成する「相馬地方広域市町村圏組合」が、地域保健医療の担い手となる看護師の養成機関として設立した公立の学校で、平成13年に開校しました。村内での実習は、令和5年度から実施されています。

学生の皆さんは村役場で、飯館村の医療・看護に関する取り組みについて職員の講話を聞き、保健師の訪問活動にも同行しました。



5月8日に来村した皆さん。代表が「地域性を理解し看護の学びに役立てたい」と実習の目標を発表しました。

ふくしま再生の会 果樹農業への挑戦

認定NPO法人ふくしま再生の会『ブドウチーム』の(左から)北原高次さん、小原壮二さん、高木浩子さん。佐須地区の畑にブドウの苗を定植して6年目。獣害や遅霜に苦労をしながら19品種を育て、栽培と収穫、醸造(委託)を通じてこの地に合う品種を見付けようと取り組んでいます。収穫したブドウのみでの醸造は2度目。試飲用のワインが完成しました。



それぞれ農業とは縁遠い職業を定年退職してから、“通い農業”での挑戦です。「この土地を守ってきた皆さんの苦労に思いを馳せながら畑仕事をしています」と高木さん。リーダーの小原さんは「いつか醸造まで村でできるようになったらいいですね」と夢を描いています。

第3回 ワクワクおでかけマルシェ

文句なしの五月晴れとなった5月3日、加工施設「もりの駅まごころ」で飯館の「食」を味わえる『第3回ワクワクおでかけマルシェ』が開催されました。当日は、屋外に並んだテントで、ナツハゼのドリンクや荳胡麻の五平餅など、村内の生産者が腕によりをかけた加工品を販売。また、屋内では蕎麦や飯館産黒毛和牛のスープなどが提供されました。村内外から多くの人が訪れ、生産者との交流を楽しんでいました。



綿津見神社例大祭 地域の芸能も復活

4月29日、綿津見神社で例大祭が行われました。震災前は3年に1度、2日間にわたって行われ、各地区の芸能が奉納されていました。震災後は平成29年に復活したもののコロナ禍で再び途切れ、今回が7年ぶり。芸能の奉納を伴う神輿渡御は平成21年以来15年ぶりです。

正装した氏子や観客が見つめる中、新しい踊り手も加わった「宮内の笠踊り・手踊り」が奉納され、神輿は八木沢、小宮、関沢、伊丹沢、深谷と各地区を巡りました。



気まぐれ茶屋のドブロックを味わって

5月17日から19日の3日間、「コラッセふくしま」(福島市)で『気まぐれ茶屋ちえこ』のどぶろく『白狼』試飲販売会が行われました。期間中は店主・佐々木千栄子さん(佐須)の娘のかおりさん(大久保・外内)が来場し、すっきり辛口の『白狼』の魅力をPR。おこわや漬物、凍み餅など、店の看板商品も販売しました。19日は市内で開催されたハーフマラソン大会の参加者なども訪れ、県内外の多くの人に商品を手にとってもらえたそうです。



福島市からの感謝状を報告

渡邊富士男さん(飯樋町)をはじめとする「健康とゴルフを楽しむ仲間の会」が、4月19日、福島市の「子ども・子育て基金」に8万3,196円を寄附しました。

渡邊さんは、この寄附の発起人で、「福島市のヤングケアラーの支援や、啓発活動に充ててほしい」と話しています。

渡邊さんの友人やゴルフ仲間から、参加したゴルフの大会やコンペの際に寄附を募り、昨年に続いて2度目の寄附を行ったそうです。



福島市から会に贈られた感謝状を手に。5月14日、渡邊さんが来庁し、杉岡村長に報告しました。

森林組合が飯館みらい発電所視察

5月1日、福島県森林組合連合会及び県内各地区の森林組合の皆さんが、蔵平地区に整備された木質バイオマス発電所『飯館みらい発電所』を視察しました。7月の本格稼働に向けて準備を進める同発電所は、村を中心とした被災市町村の間伐材や樹皮などを年間約9.5万t使用して発電し、余熱を農業に活用することも計画しています。林業を担う皆さんが実際に施設を訪問し、事業への理解醸成が進む視察となりました。



災害救助犬じゃがいも 道德の教科書に

震災直後に村で生まれ、飼い主の避難に伴いNPO法人日本動物介護センター(岐阜市)に預けられた雑種犬のじゃがいもは、約5年間の訓練と11回の挑戦で、災害救助犬の認定試験に合格。飯館村の「わんだふるまでい大使」も務めました。

このじゃがいもと訓練士・上村智恵子さんのエピソードが、小学6年生の道德の教科書(日本文教出版)に掲載されました。じゃがいもは能登半島地震の被災地に駆けつけるなど今も元気に活躍しています。



世界のトップ選手が使用するバドミントン用ガットを製造

CRSスポーツ工業株式会社

今年、村内に2工場を開設したCRSスポーツ工業株式会社。バドミントンラケットの世界的なブランドに高品質のガットを提供しています。

業績が急速に拡大する中、工場用地と人材を求めている佐藤社長。亡き父の故郷、川俣町飯館地区に残る、飯館村の仮設小学校跡地を用地の候補と考えました。

相談のために役場を訪れた今年の1月、「産業団地ができることを踏まえて村内に進出してはどうだろう」と提案を受け、既存の建物を活用して村内に工場を開設することになりました。「飯館工場」には旧草野小学校の一部、「飯樋工場」には飯樋町の空き工場を活用。それぞれに数十台の機械を運び入れ、4



製紐は自動化が進んでいて、編む機械は5,000mを編むまで2週間動き続けます。



大東さんのクラスにだけ残っていた道具掛けの名前のシール。奇跡の再会です。



飯館工場(旧草野小学校)の中庭にて。

CRSスポーツ工業株式会社

飯館工場 飯館村草野字大師堂113-1

飯樋工場 飯館村飯樋字町455

(本社) 埼玉県北葛飾郡杉戸町下野835-1

☎ 0480-37-2658 (本社)

<https://crssi.co.jp/>

月の稼働に漕ぎつけました。「すぐに使える場所を提供いただき、本当に助かりました」。

20代の社員2人が埼玉県から赴任し、5人を現地で採用。7人体制で2工場をスタートしました。求人には60人の応募があり「飯館でも人は来る」と自信も深めました。旧草野小学校の体育館にも工場を拡大し増員する予定で、拠点を埼玉県から移す構想も浮上しています。

同社は、拠点に根を張ることを大切に考えています。「地域に根ざさないと、いいものはつけない。長く働き家庭を築いて、やがてその子どもがここで働く、そんな会社になりたいの

です」と佐藤社長。「飯館村の皆さんの熱意と温かさに感激しました。社員と共に、イベントや祭りに協力したいし、バドミントンで村おこしも考えたい」。

そして、運命的な出会いは続きます。現地採用の1人、飯館村出身の大東かりんさんは、震災時、草野小学校の2年生でした。避難先の福島市の中学校でバドミントンを始め、今も社会人サークルでプレーしています。

「まさか草野小学校で働くことになる」と微笑む大東さん。当時の面影を残す校舎で働き、母の実家で、祖母のつくる昼ごはんを食べるという新鮮な日々を過ごしています。

春日部大風を村に寄贈

5月24日、村内で2工場を開設したCRSスポーツ工業株式会社(P25に詳細)が、『春日部大風あげ祭り』(埼玉県春日部市)に出品した大風を村に寄贈しました。祭り当日の去る5月5日には、杉岡村長が現地を訪れ、佐藤社長と共に「根」の字が描かれた大風を空に揚げました。(来年上げる大風は「芽」の字だそうです)



アヤメとポピーの花畑が話題に

桑折町の小野孝明さんが、関沢地区の知人から有休農地を借り受けて、令和3年から手入れを続ける『結GARDEN』。紫色のアヤメを移植し、株を増やして写真のような景色をつくり出しています。また、一段下がった場所には、ポピーの花畑もつづいて、花便りを聞きつけた人々が、遠くからも訪れています。「これからもコツコツ続けて花畑を広げていきたい」と小野さん。ポピー畑の見頃は6月中旬までの見込みです。



米国学生がスマート農業実装を視察

5月22日、アメリカ合衆国ジョージア州のケネソー州立大学の学生らが村で視察研修を行いました。引率のダニエル・フェレイラ教授が福島に関心を寄せたのは、平成25年に米国土壌学会で溝口勝教授(東京大学農学生命科学研究科)らが主催した「福島における土壌科学者たちの挑戦」がきっかけ。溝口教授によるスマート農業技術の社会実装を視察しようと、学生と共に来村しました。一行は、機器を設置する菅野宗夫さん(佐須)の水田で田植を体験し、村内各所を視察。稲の成長はアメリカからも観察できるそうです。※右QRから▶



飯館村婦人会が道路の美化活動

5月11日、飯館村婦人会(長谷川花子会長)の皆さんが、村内で奉仕作業を行いました。何年も続く美化活動です。今回は、商工会前から役場までの約2.3kmの道のごみ拾いを行っていただきました。本当に、ありがとうございました。



婦人会の皆さんは、今回のような環境美化のボランティアの他、村のイベントなどで地域のための活動を行っており、随時会員募集中とのことです。連絡先☎090-6250-6748(長谷川会長)

福島大学でイベント 飯舘産牛肉の牛丼が登場

福島大学で、飯舘産黒毛和牛の牛肉を使った牛丼を味わうイベントが開催されました。キャンパス内の学生食堂で、5月15日から17日までの3日間、各日400食の特製牛丼が提供されるというイベントです。同時に福島大学が、同大校友会と協力して「福大生応援プロジェクト2024」を実施し、校友会員の学生は、1食100円（一般価格は650円）で、この牛丼を味わいました。

初日の15日、イベント開始の午前11時には、食堂の窓口で学生が長い列をつくり、おいしそうに牛丼を頬張る笑顔が、ホールのテーブルに連なりました。



また、別室では試食会も開催され、三浦浩喜学長や高橋副村長をはじめとする関係者が、協力関係に感謝を伝え合い、牛丼の試食を行いました。今回の牛丼に使用されたのは、飯舘産の牛肉のうまみや甘みの研究を行う石川尚人食農学類教授らが関わった経産牛の牛肉です。試食会の出席者は「味が濃くておいしい」「肉の甘みを感じる」などと感想を述べ合い、「応援」のこもった牛丼を味わいました。



5月の村の動きと主なできごと

- 1日・土屋品子復興大臣 来村（長泥地区）
- ・福島県立医科大学保健科学部 実習（いいたてホーム）
- 7日・いいたて移住サポートセンター「3ど」お披露目会（いいたて移住サポートセンター「3ど」）
- 8日・10日・14日・相馬看護専門学校 実習（村内各所）
- 10日・齋藤元彦兵庫県知事 来村（村役場／田舎レストランラカッセ／長泥地区）
- 12日・飯舘YOUTOKO発見！ツアー（交流センター「ふれ愛館」／大火山他）
- ・長泥行政区住民懇談会（長泥コミュニティセンター）
- 15日・福島大学 飯舘産牛肉を使った牛丼試食会（福島大学）
- 15日・18日・第7次総合振興計画に係る先進地視察（高知県／徳島県）
- 16日・ふくしま移動式水素ステーション視察（福島市）
- ・ふくしま田園中枢都市圏首長会議（福島市・福島グリーンパレス）
- 18日・いいたてつ子運動会（いいたて希望の里学園校庭）
- ・守時タツミコンサート（交流センター「ふれ愛館」）
- 20日・農業委員会定例総会（村役場）
- 21日・菅野典雄前村長 県知事表彰（福島市・杉妻会館）
- 22日・令和6年度南相馬地区防犯指導隊委嘱状等交付式（村役場）
- ・福島県立医科大学保健科学部 実習（いいたてホーム）
- 23日・いいたて希望の里学園 前期課程の田植え体験（前田・八和木地区）
- ・定例教育委員会（いいたて希望の里学園）
- ・文化財保護審議会（交流センター「ふれ愛館」）
- 24日・「いいたての牛を考える会」視察研修（西郷村・家畜改良センター他）
- 29日・生涯学習事業 フラワーアレンジメント教室（交流センター「ふれ愛館」）
- ・第1回学校運営協議会（村役場）
- 30日・社会教育委員会（交流センター「ふれ愛館」）
- 31日・村民スポーツ大会検討会議（交流センター「ふれ愛館」）

高野進さん 瑞宝単光章

高野進さん（八木沢・芦原）が、春の叙勲で「瑞宝単光章」を受章しました。この勲章は、長年にわたり公共的な職務に従事し成績を上げた方に贈られるものです。高野さんは、昭和58年から37年間にわたり飯舘村消防団の団員として活動し、最後の4年間は団長を務めました。高野さんは受章について「家族や団員に支えられ、一緒に活動をした証し」と感謝し、「これからも消防団の活動を見守っていきたい」と団に対する応援の気持ちを語りました。



5月17日、杉岡村長らが八木沢地区の高野さんの自宅を訪れ、瑞宝単光章を伝達しました。

消防飯舘分署からのお知らせ



住宅用火災警報器の設置率調査結果

今年の3月に住宅用火災警報器（住警器）の設置状況について調査しました。結果、約96%のご家庭で設置されており、全国平均値（約84%）よりも高い水準でした（条例で定める設置位置全てについている割合は約88%）。なお、設置から10年以上経過したものや未点検のものがあり、維持管理が課題となりました。

住宅用火災警報器は適切な維持管理を行うことで効果を発揮します。10年を経過すると電池切れや本体の故障で作動しないことがありますので、定期的な交換をお勧めします。また日常点検をお願いします。



熱中症の予防について

これからの季節は気温が上がり熱中症が増える時期になります。特に、気温や湿度が高い日は、体内の水分や塩分のバランスが崩れ、体温調整がうまく働かなくなることで熱中症の発症リスクが高まります。下記のポイントを参考に熱中症を予防しましょう。

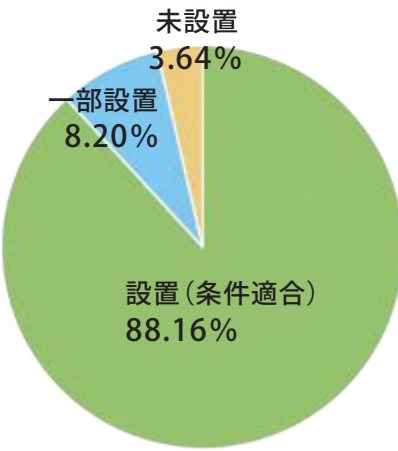
【熱中症予防のポイント】

- ・喉が渇く前に水分・塩分を補給しましょう。
- ・エアコンを適切に利用しましょう。
- ・外出時は日傘や帽子を着用しましょう。
- ・熱中症警戒アラート発表時は不要不急の外出を避けましょう。

問 南相馬消防署飯舘分署 ☎0244-42-0119

村内 住警器設置率調査（R6）

設置率（設置＋一部設置）
＝ 96.36%



飯館村のシンボル 村章などの生い立ち

歴史の散歩道

〈村民憲章〉
わたしたちは、美しく豊かな阿武隈の山なみと人情にはぐくまれ、限りなく躍

進する飯館村民です。
わたしたちは、この誇りと自覚をもって、わたしたちと子孫のために、楽しく働き、明るく、より豊かなより住みよい村づくりをめざし、この村民憲章を定めます。

村の鳥・うぐいす

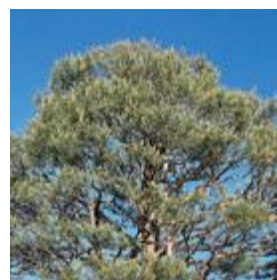


村の鳥・うぐいす



村の花・山百合

村の木・花・鳥(昭和51年制定)



村の木・あかまつ



飯館村の村章(昭和41年制定)

1. きまりを守り 伝統の美を築きましょう。

1. 創意をこらし 協力の実を結びましょう。

1. 環境を整え 健康の喜びを深めましょう。

1. 教育を重んじ 若人の夢を育てましょう。

村民歌の歌詞と同様、故郷と人々への想いにあふれ、よりよい地域づくりに力を合わせようという決意に満ちています。

飯館村は、令和8年(2026年)に、立村70周年を迎えます。

いいたて イノサル通信

飯館村のサル事情～生息状況と対策の計画

サルの群れには計画的に対処する

サルによる被害があると、サルの数を減らしてしまえば良いと思うかもしれませんが、それだけでサルの被害を減らすことは難しいものです。

サルの群れは、それぞれ、人や作物に危害を及ぼす危険度(加害レベルといいます)が違います。群れを区別せずに捕獲を続けると、加害レベルの高い群れのサルを減らせない可能性があります。また、無計画に捕獲すると、複数の群れに分裂することもあります。群れが分裂すると、それぞれの群れで頭数が増えたり、生息する範囲が広がってしまいます。

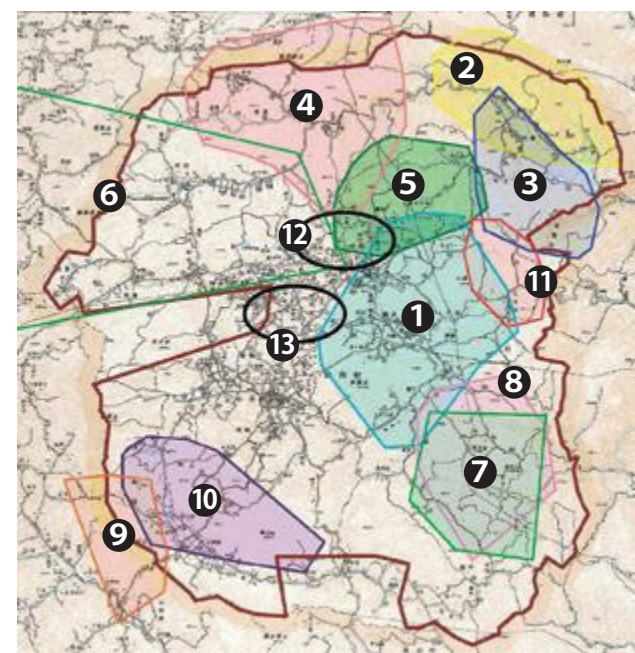
そこで、飯館村ではサルの捕獲計画を立てて、鳥獣被害対策実施隊が、加害レベルの高い群れから優先的に捕獲しています。

飯館村はどうなっているか

飯館村のサルの群れの行動範囲と加害レベルは下の図と表のとおりです。最も加害レベルの高い群れは、おおよそ計画通りに捕獲が進んでいます。

(表) 群れの加害レベル

群れ名	頭数	加害レベル
① 草野群	80頭	4
② 大倉1群	78頭	3
③ 大倉4群	85頭	2
④ 佐須群	45頭	3
⑤ 宮内群	59頭	2
⑥ 小島群	40頭	2
⑦ 蕨平A群	76頭	2
⑧ 蕨平B群	59頭	2
⑨ 疣石山A群	43頭	2
⑩ 疣石山B群	76頭	2
⑪ 芦原群	39頭	2
⑫ 小北群(仮)	約40頭	調査中
⑬ 伊丹沢群(仮)	約50頭	調査中



加害レベル

- 5 群れ全体が通年・頻繁に出没。人と集落環境への慣れが進み、生活環境被害が大きく、人身被害の恐れがある。
- 4 群れ全体が通年耕作地に出没し、常時被害がある。人と集落環境への慣れが進み、生活環境被害が発生している。
- 3 群れは季節的に大半の個体が耕作地に出てきて、農作物に被害を出している。
- 2 群れの出没は季節的で農作物の被害はあるが、耕作地に群れ全体が出てくることはない。
- 1 群れは集落でたまに出没するが、ほとんど被害がない。

これからどうすべきか

飯館村は、鳥獣被害対策実施隊とともに、これからも計画的に捕獲を進める方針です。また、果樹を管理したり、農地に防除柵を立てて侵入できなくしたりする対策を並行して行うことで、被害を減らすことも大切です。

イノサル通信は村の鳥獣対策を支援する京黒さんからのお知らせです。



福島県避難地域鳥獣対策支援員

京黒 篤志 さん

令和3年1月から福島県避難地域鳥獣対策支援員を務めています。令和6年度から飯館村の主担当となりました。

ふれ愛館だより

交流センター「ふれ愛館」からのお知らせです。

おすすめ図書を紹介し

6月23日から29日は「男女共同参画週間」です。個性と能力を最大限に発揮できる社会を目指すために、本を通して個々の在り方について考えてみましょう。

Red(レッド)

あかくてあおいクレヨンのはなし



マイケル・ホール 作
上田勢子 訳
ワニブックス

『レッド』と書いてあるラベルのクレヨンは、赤いものを書くことが苦手な、何度挑戦してもうまく書くことができません。それは赤ではなく青だから。自分が青色だと気づいたレッドは青いものを生き生きと描きま

樹々の緑が芽吹くように 新たなワクワクが生まれています



第22回

「飯館村ホッププロジェクト」も始まり、ホップの栽培にトライされる方も出てきました。一つひとつ、お一人ひとりのチャレンジが大きなワクワクの輪になり、村の活性化に繋がります。ふるさとの担い手の意欲と行動力が村を動かす原動力です。

樹々の緑が芽吹くように、種々、新たなワクワクの芽が始めております。

「飯館村」で検索してみてください。

「飯館村」は福島県の奨励品種であり、現在飯館村でのみ栽培されているもち米です。今年度生産される「あぶくもち」は、昨年に続きセブン・イレブン・ジャパンに出荷され、おこわおむすびとして販売される予定です。また、村民による加工品の開発も進められていて、「あぶくもち」を使った焼き菓子などが商品化されています。

新緑の5月。土屋品子復興大臣、平木大作復興副大臣、岩田和親経済産業副大臣のそれぞれ再度、再々度のご来村に加え、齋藤元彦兵庫県知事が来庁されるなど、いろいろな動きのある月となりました。

ゴールデンウィークには3回目となる「ワクワクおでかけマルシェ」が開催されました。回数を重ねるにつれ、どんどん大きな賑わいが生まれており、ご出店の皆様もご来場の皆様も、充実した笑顔を浮かべておられた姿がとても印象的でした。次回は「あぶくもちの甘酒『アイス』」が出品されるかも、このお話もお聞きし、今からワクワクしています。

また、元飯館村職員が紡いでくれた「縁により埼玉県春日部市にて、『春日部藤まつり』や『大風あげ祭り』にも参加させていただきました。そして、今年3月に『根』をはる、『芽』を出す、『花』をつける、『実』になる」をモットーとして埼玉県から飯館村に進出された「CRSSスポーツ工業」様が、飯館村の風を準備して揚げてくださいました。私も何十年かぶりに風揚げで河原を走りましたが、童心に戻りつつ、天高く昇っていく風を眺め、晴れ晴れしい心持ちにさせていただきました。このときの「ワクワク風」を村役場入口の階段脇に展示しておりますので、ぜひご来庁の際にご覧いただければと思います。

そして、移住サポートセンターが、この度「3」とを愛称としてリニューアルしました。移住希望者の方はもちろん、村民の皆様や、村にお立ち寄りの方も含め、すべての皆様を繋ぎ、飯館村を発信していくステーションとして、3度と言わず何度でも訪れたい拠点となるよう、活用いただければ幸いです。

5月20日から25日まで、福島テレビの「市町村ウィーク」で飯館村が特集されました。村内の多くの飲食店、宿泊施設、お買い物処のほか、貴重な映像なども放映され、お恥ずかしながら24日の道の駅での生放送に出演させていただきました。YouTubeに見逃し配信の映像がアップロードされていますので、ぜひ「福島テレビ 飯館村」で検索してみてください。

■ひとのうごき

おくやみ

氏 名	年齢	行政区
赤石澤 一則 さん	82	大久保・外内
山 岸 キミエ さん	91	白 石
三 浦 嘉伊光 さん	91	小 宮
庄 司 久 雄 さん	65	深 谷

大火山つつじの森



ご冥福をお祈り申し上げます



(4月21日から5月20日までに届け出のあったものを掲載)
※この欄に掲載を希望しない方は、届け出の時に住民係へお申し出ください。

ひとのうごき 令和6年5月1日現在

人 口	今 月 (前月比)	4月1日～30日までの人口動態
●男	2,333人(+1)	転入 12人
●女	2,274人(-2)	転出 10人
計	4,607人(-1)	出生 1人
世帯数	1,803戸(+1)	死亡 4人
		(住民基本台帳人口)

あぶくもち 種子ほ場の田植え開始

5月20日、前田地区のほ場で、「あぶくもち」の種子栽培が開始されました。

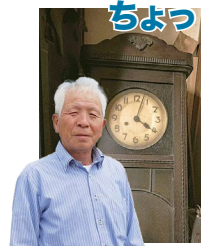
「あぶくもち」は、県が高冷地向けの品種として開発したもち米で、現在飯館村では8.4haに作付けされています。今回は、青田豊実さん(前田)の種子ほ場で、役場や県の職員も一緒になり、25aの作付けを行った他、既に作付けしたほ場の補植も行いました。



「あぶくもち」は福島県の奨励品種であり、現在飯館村でのみ栽培されているもち米です。今年度生産される「あぶくもち」は、昨年に続きセブン・イレブン・ジャパンに出荷され、おこわおむすびとして販売される予定です。また、村民による加工品の開発も進められていて、「あぶくもち」を使った焼き菓子などが商品化されています。

村民広報委員 富士男の

ちよっと寄り道 ②



!! 時間 !!

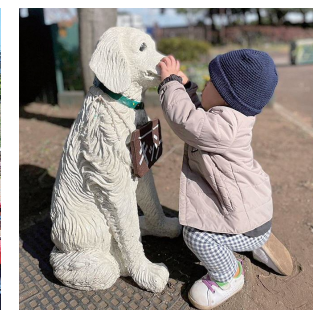
過日、いいたて希望の里学園の運動会を見る機会があり、児童生徒の、のびのびとした姿と仲間達と力強く演技する時間を垣間見る事ができました。

子ども達にも未来に対する希望の時間があるように、人にはそれぞれに色々に迎える時間があり、それぞれに家族で過ごす喜びの時間などもあると思います。たまには一人で過ごす優雅な時間であったり、もしかすると幼少の頃の思い出時間などもあったと思います。どんなにか、この「今を過ごす時間」が大事なことであるかを思います。私自身も70年を生きてきて、これから生きていく時間が、今までの時間よりも決して長くはない事を知っています。

何年前か前、大地震の後、避難している年配の人を、ある仮設住宅に訪ねた時、「飯館に帰ったら、また農業をやんだべー？」と聞いたところ、「おらには時間がない。歳とって畑、田んぼの土を作り変える時間がないから、もう畑、田んぼは作んねーんだ!」と言われた事があります。農業の難しさ、厳しさを知ったような気がして、ちよっと寂しく感じたのを覚えています。

老若男女、誰にも等しく大切な時間があり、大切な時間なのに、もう決して戻せない時間なのです。

いかに「今」という時間が、大切であり、大事にしなければならないかという事を、我が身を通じて知る必要があると、今、想っています。



挑戦の農地を受け継いで

須萱地区で飯館村振興公社が田植え

4月14日、飯館村振興公社の農業部門の皆さんが、須萱地区で田植えを行いました。振興公社は今シーズンから、集約された農地の担い手となる取り組みを本格化。今年度は村全体で、約38haの水田に作付けします。

この日田植えが行われていた場所は、避難指示と作付け制限が解除された平成29年に、震災



振興公社の新たな挑戦を、関係機関や村民がサポートします。田植え機に向かってアドバイスを送る高橋さん（手前の左から2人目）



7年前の5月、同じ場所で作付け制限解除後初めての田植えを行う高橋さん。



年々作付け面積を広げた須萱地区の水田。写真は令和3年夏の風景。

後初めての田植えが行われた場所です。高橋松一さん（二枚橋・須萱）が「ヒメノモチ」を直播で播種し、「震災前の村に少しでも戻りたい。飯館の米はおいしいね」と言ってもらえるよう時間をかけてやっていきたい」と語りました。それから7年、高橋さんは、道の駅の直売所やレストランに美味しいお米を提供

し多くの人に喜ばれています。また、地域の水田の管理も引き受け、飼料用米などの栽培にも取り組んできました。高橋さんは、今後はサポート役に回ろうと考えていて、今年、大切な農地の耕作を、振興公社に託しました。「秋の景色を楽しみに見守りたい。頑張っていました」と話していました。

いいたてナイター駅伝

いいたてスポーツ公園（周回コース）

第1部 小学生 20 チーム（1km×4人）午後6時～
第2部 中学生 30 チーム（2km×4人）午後7時～
第3部 フリー 30 チーム（3km×4人）午後8時～

参加料（チーム単位）

第1部 6,000 円、第2部 8,000 円、第3部 1 万円

参加申し込み受付中！

（先着順／6月28日午後5時まで）



大会事務局（いいたてスポーツ公園）☎0244-42-0152

午前8時30分～午後5時（土・日曜日、祝日を除く）

〈編集後記〉

広報担当に就任してから二回目の広報の作成。村内のイベントや村民の皆様への取材にたくさん伺いました。取材を通して村の各所を巡る中で、知らない景色や新しい取り組みに触れ、飯館村出身でありながら自分の視野の狭さを再認識しました。皆様の声を文章にし、伝えることの難しさを身にしみて感じながら、皆様の想いを形にする第一

線に立つワクワクを感じた一か月でした。（巻野）運動会で学園の児童生徒が声をかけ合う様子にすっかり感心してしまいました。スタートでつまづいた下級生を名前を呼んで応援したり、係作業のコツを伝えて友達をサポートしたり、少し辛い人にかかる言葉がやさしくて、心にぐっと沁みました。やさしさのリリースはきっと次の代へも。私も見習いたいです。（星）